

地域活性化に資する公園リノベーション ～西郷公園再整備を対象としたケーススタディ～

羽野 暁¹

¹第一工業大学 講師 自然環境工学科 (〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央1-10-2)
E-mail: s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

A Proposal on the Renovation of Park for Regional Revitalization

Satoshi HANO¹

¹Lecturer, Dept. of Civil and Environmental Engineering, Daiichi Univ. Institute of Technology
(Kokubu-Chuo 1-10-2, Kirishima-shi, Kagoshima-ken 899-4395, Japan)
E-mail: s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

Abstract : When designing an urban park, the thought of regional revitalization should be taken into consideration. In this paper, we proposed on the renovation of park according to case study of Saigo Park that is decreasing the volume of traffic and footfall in recent years. We researched the geographical and historical context of Saigo Park using by hearing and questionnaire survey. Therefore, latent demand of use of Saigo Park such as daily use of children lived in the vicinity, the desire of member concerned with construction of the statue of Saigo, and the utilization plan of this park by support teams was disclosed. These demand was duly considered in renovation planning of Saigo Park. We proposed an approach of renovation of the urban park conducive to regional revitalization.

Key Words : renovation, landscape design, park planning, regional revitalization, urban park

1. はじめに

都市公園は、地域のにぎわいの中心となり得る社会基盤施設であるが、設計規準に沿った画一的な計画・設計手法では十分なにぎわいを創出できない事例が多い。本稿は、開園当初のにぎわいが減少している鹿児島県霧島市の西郷公園を対象として、西郷公園が有する地域性や潜在性を考慮したリノベーションプランを立案するものである。西郷公園の歴史的文脈と公園周辺の地理的文脈の整理、および、ヒアリング調査とアンケート調査による公園利用潜在性の把握を通して、西郷公園を対象に都市公園の再整備計画を立案するケーススタディを実施し、地域活性化に資する公園リノベーション手法の一提案を試みるものである。



写真-1 現在の西郷公園と西郷像

2. 西郷公園の歴史的文脈

西郷公園は、鹿児島県霧島市溝辺町の鹿児島空港前に整備された 6,387 平方メートルの霧島市管理の公園である。周囲は藩邸をイメージした門と塀で囲まれ、園内には高さ 10.5 メートルの西郷隆盛の銅像が設置されており、この西郷像を中心に園内の空間が構成されている（写真-1）。西郷像は、西郷公園の整備に先駆け地域の若者が中心となり市民の募金を集めて現在の場所に建立された。この建立を機に、当時の溝辺町が像の周辺を町管理の公園として整備した経緯がある。公園のリノベーションを進めるうえで重要な歴史的な文脈であり、当時を知る関係者ヒアリングと文献資料^{1,2)}から、西郷公園と西郷像に関する歴史的経緯を整理した（表-1、表-2）。

表-1 西郷公園と西郷像に関する歴史的経緯

年	西郷公園と西郷像に関する事柄
1827	● 1月、西郷隆盛誕生
1868 M1	● 明治政府発足（明治維新）
1877 M10	● 9月、西郷隆盛死没（50歳）
1975 S50頃	● 「西郷隆盛の遺訓を称える会」（会長：迫水久常参議院議員）が発足し、西郷没後100年（昭和52年）の記念事業として、京都の護国神社に西郷像の建立が計画される
1976 S51	● 関西の鹿児島県出身者有志が、富山県の鑄造会社黒谷美術に銅像制作を依頼し、彫刻家古賀忠雄氏（日展常務理事・日本彫刻会理事長・陶彫会会長・佐賀県出身）の手により原型が制作される
1977 S52	● 黒谷美術の立山工場にて、鑄造に着手される ● 年末に世話役であった「西郷隆盛の遺訓を称える会」会長の迫水久常氏が急死、西郷像は部分鑄造の段階で制作が中止される ● 西郷隆盛没後100年
1979 S54	● 古賀忠雄氏死去
1987 S62	● 6月25日付け南日本新聞に記事「富山の倉庫に眠る西郷どんの巨大立像」が掲載される ● 上記新聞記事を読み、溝辺町商工会員を中心とした民間活動グループである商工立志会の若者たちが、募金により、西郷像を鹿児島空港の正面に建立することを発案
1988 S63	● 溝辺町助役の岩元勝芳氏（後の溝辺町長）と商工立志会の代表などが富山県を訪れ西郷像を視察 ● 古賀晟氏（古賀忠雄氏の長男）に建立計画を直談判し了承を得る ● 商工立志会を中心として建立実行委員会（建立実行委員長：木佐木信廣氏）を結成、地道な募金活動により1億2千万円余りが集まる ● 昭和63年5月28日に西郷像建立 ● 同年8月28日に除幕式、溝辺町に寄付 ● 同8月、建立敷地が財団法人溝辺町開発公社から溝辺町に寄付
1989 H1 (S64)	● 3月、NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」制作発表 ● 同月、商工立志会が大河ドラマ館の誘致を計画、

	● 溝辺町長今吉衛氏が尽力し、8月に設置決定 ● 西郷像を中心とした溝辺西郷公園整備 ● 西郷公園内に大河ドラマ館整備
1990 H2	● NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」放送 ● 溝辺西郷公園オープン ● 鹿児島観光の要として連日大勢の観光客で賑わう
1991 以降	● NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」放送終了とともに、ブームが去り次第に観光客が減少 ● 管理組合方式での運営が困難 ● 施設を民間に貸し出す、入園料を無料とする
2005 H17	● 溝辺町を含む1市6町の合併により、霧島市が管理・運営する霧島市西郷公園となる
2008 H20	● 6月、西郷像建立20周年を機に当時の関係者および霧島市民により「明日の西郷公園を見詰める会議」初会合
2014 H26	● 9月、回廊を常設ギャラリーとしてリニューアル、霧島市文化協会が常設展を開催
2015 H27	● 12月、西郷公園内に売却していた昭和製果株式会社の薩摩庵西郷公園店が閉鎖
2016 H28	● 西郷公園応援隊が発足 ● 9月、NHK大河ドラマ「西郷どん」制作発表
2018 H30	● 明治維新150周年、西郷像建立30周年 ● NHK大河ドラマ「西郷どん」放送予定
2027	● 西郷隆盛没後150年

西郷像の制作は、西郷隆盛没後100年の記念事業として京都の護国神社に建立する計画で、昭和51年に「西郷隆盛の遺訓を称える会」（会長：迫水久常参議院議員）より彫刻家古賀忠雄氏に依頼され進められた。しかし、翌昭和52年、世話役であった会長の迫水久常氏が急死し建立計画は頓挫した。昭和54年には制作を担った古賀忠雄氏が死去し、西郷像は鑄造した富山県の黒谷美術株式会社の倉庫に保管された。その後、昭和62年6月25日付け南日本新聞に、古賀氏遺族の「できることなら西郷さんの郷里に建立できたら」との意思が掲載されたことを受け（図-1）³⁾、同記事により西郷像の存在を知った溝辺町商工会員を中心とした商工立志会の若者たちが、募金により西郷像を鹿児島空港の正面に建立することを発案する。当時、溝辺町助役であった岩元勝芳氏（後の溝辺町長）と商工立志会の代表が富山県を訪れ西郷像を視察し、古賀忠雄氏の長男である古賀晟氏に建立計画を直談判し了承を得た。その後、商工立志会を中心として建立実行委員会（委員長：木佐木信廣氏）を結成、地道な募金活動により、溝辺町内の3,700人、町外の13,400人から総額1億2千万円余りが集まった。募金を受けて、西郷像は富山より船で運搬され、昭和63年5月28日に現在の場所に建立された。同年8月28日に除幕式が開催され、像は溝辺町に寄付された。建立敷地は、同じく8月に財団法人溝辺町開発公社から溝辺町に寄付されている。西郷像の建立後、溝辺町は周辺を

公園として逐次施設整備を進め、平成2年、溝辺町西郷公園としてオープンした。NHK大河ドラマの放送とも重なり、公園は多くの来場者で賑わったが、その後、次第に利用者は減少し現在に至っている。そのような中で、平成26年以降、霧島市文化協会による市民利用の促進や、平成28年に発足した西郷公園応援隊による地域イベントの開催など、現在、にぎわいの再興が模索されている。



図-1 昭和62年6月25日付け南日本新聞記事³⁾

3. 西郷公園の地理的文脈

西郷公園の周辺は、鹿児島空港、九州自動車道、レンタカー施設、森林、茶畑、住宅、学校等が混在した環境である。西郷公園のリノベーションコンセプト立案に向けて、現地踏査と航空写真を用いた土地利用状況調査を実施し(図-2,3)、①観光利用、②地域住民利用、③エコロジカル・ネットワーク構築の3つの視点から、250m,500m,1kmの公園誘致距離指標とともに公園周辺の地理的文脈を整理した。

① 観光利用における地理的文脈

西郷公園の正面(公園北東部、図上部)は国道を挟み鹿児島空港に面しており、西郷公園の両側面はレンタカー施設が連なる(図-4)。西郷公園を中心とした500m圏内に空港ターミナルビルやレンタカー施設があり、250m圏内には観光施設であるバリル・バレイが立地する。西郷公園は、レンタカー施設やバリル・バレイを訪れる空港利用者の動線上に位置し、これらの施設の徒歩圏内に存在している。

② 地域住民利用における地理的文脈

西郷公園の背面(公園南西部、図下部)は九州自動車道を挟み住宅地に面しており、綾南中学校、綾南小学校、綾南幼稚園など学校施設が存在する(図-5)。西郷公園を中心とした1km圏内に多くの住宅が立地し、500m圏内付近に幼稚園および小中学校が立地する。九州自動車道横断等の迂回必要性により西郷公園へのアクセス経路延長は長くなるが十分に日常利用可能圏内である。

③ エコロジカル・ネットワークの構築

西郷公園の背面(公園南西部、図下部)は、森林や茶畑など多くの緑地が存在しており、西郷公園の前面は国道街路樹が連続し、空港周辺の緑地とつながっている(図-6)。西郷公園の園内を緑化することで周辺とのエコロジカル・ネットワークが構築でき、昆虫や鳥類、植物種子等生物の飛来により、公園内での自然環境体験が期待できる。



図-2 西郷公園周辺環境 (google 2017.2 閲覧写真加筆)

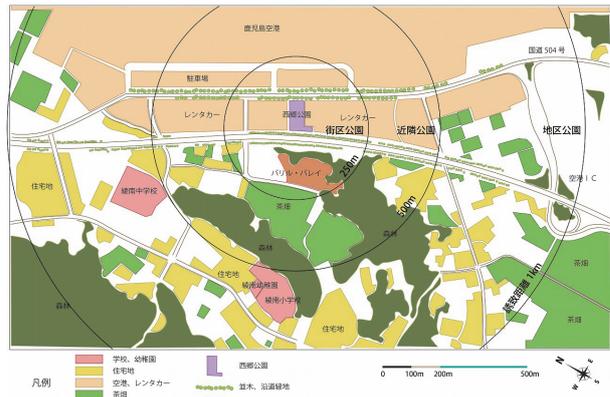


図-3 西郷公園周辺の土地利用

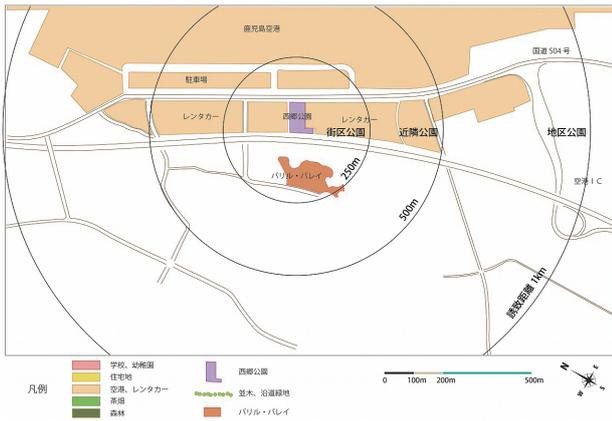


図-4 西郷公園周辺の土地利用 (空港・レンタカー)

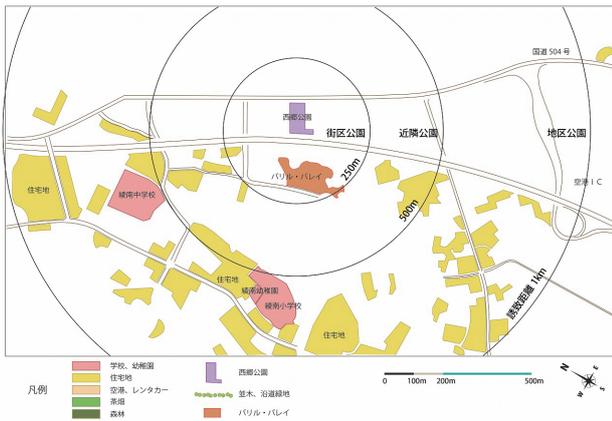


図-5 西郷公園周辺の土地利用 (住宅・学校)

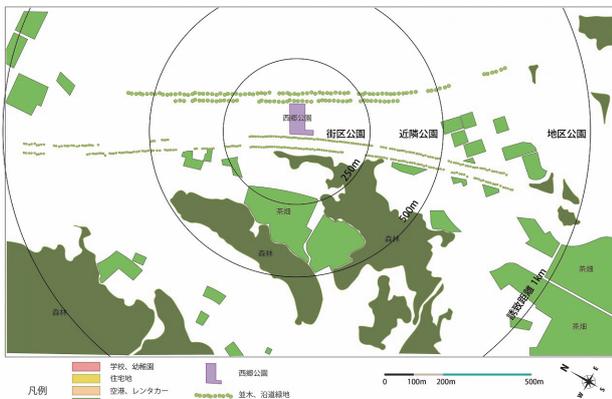


図-6 西郷公園周辺の土地利用 (緑地)

4. 西郷公園の潜在的価値の把握

本章では、ヒアリング調査 (表-2) , および、周辺小学校児童への利用アンケート調査により、西郷公園の観光および地域利用の潜在性を把握した。綾南小学校の5年生及び6年生計93名へのアンケート調査では9割弱の生徒が西郷公園の存在を認識していたが、3割の生徒が一度も西郷公園を訪れたことがなく、また、6割弱の生徒が今まで一度しか西郷公園を訪れたことがないと回答した。今まで西郷公園に1回以下しか訪れたことがない生徒が約9割弱を占め、施設としての認知度は有しているが利用

頻度は著しく低いことが分かった。西郷公園利用経験生徒に対する目的を問うアンケートでは、西郷像を見るためや、西郷さんの歴史を勉強するため等、西郷公園特有の目的が多数回答された (図-7) 。西郷公園がどのように再整備されると利用したいかと問う再整備内容に関するアンケートでは、運動ができる広場があると良い、楽しいイベントが開催されると良い、食べ物や飲み物が買えると良い、遊具がたくさんあると良い、明るい雰囲気が良い等の回答が多数を占め、放課後の利用や休日イベント参加等日常的な公園利用を希望した回答が多い (図-8) 。西郷公園が再整備されたら何をして遊びたいかと問う再整備後の利用希望アンケートでは、遊具で遊ぶ、食事をする、ドッジボールやサッカー、バスケットボール等球技スペースとしての利用が多く回答された (図-9) 。

表-2 ヒアリング調査概要

対象者	属性	実施日時
内山氏	西郷公園応援隊代表 霧島市文化協会事務局長	2017.1.12 14:00-16:00
山口氏	西郷公園応援隊	
鈴木氏	河内菌本舗店長	2016.12.18 10:00-10:20
中馬氏	霧島市立綾南小学校長	2017.1.23 8:00-8:40
福永氏	同 教頭	
末永氏	霧島市立綾南幼稚園長	2017.1.25 15:00-16:00
木佐木氏	西郷像建立実行委員会委員長	2017.2.14 13:30-16:00

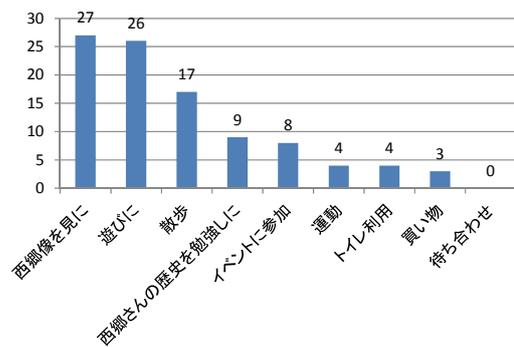


図-7 西郷公園の利用経験アンケート結果

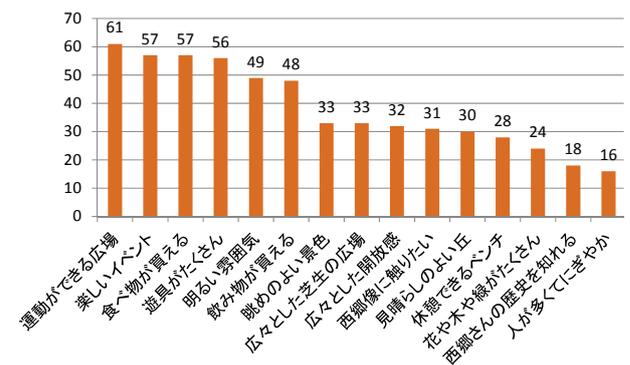


図-8 西郷公園再整備内容に関する希望アンケート結果

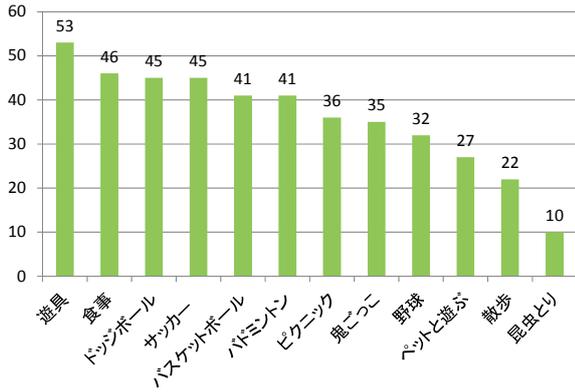


図-9 西郷公園再整備後の利用希望アンケート結果

現在の西郷公園は周辺を高塀で囲まれ外部から公園内が確認できず、また、公園内は建築物が多く児童が遊ぶスペースは乏しい。各所へのヒアリングによると、西郷像建立当初の公園整備思想は、多くの市民が自由に西郷像のもとを訪れ西郷隆盛の偉功や敬天愛人の教えに触れることができる空間の創出であったことから、西郷公園は外部に向けて開放的な空間であり、児童が集い地域利用が促進されることが望ましい。周辺の幼稚園においては自然学習の場としてのニーズもあり、地域の歴史と自然を学習できる環境の整備が求められる。

5. 西郷公園リニューアル計画



図-10 西郷公園の現在の園内空間構成（上：google 航空写真 2017.2 閲覧）

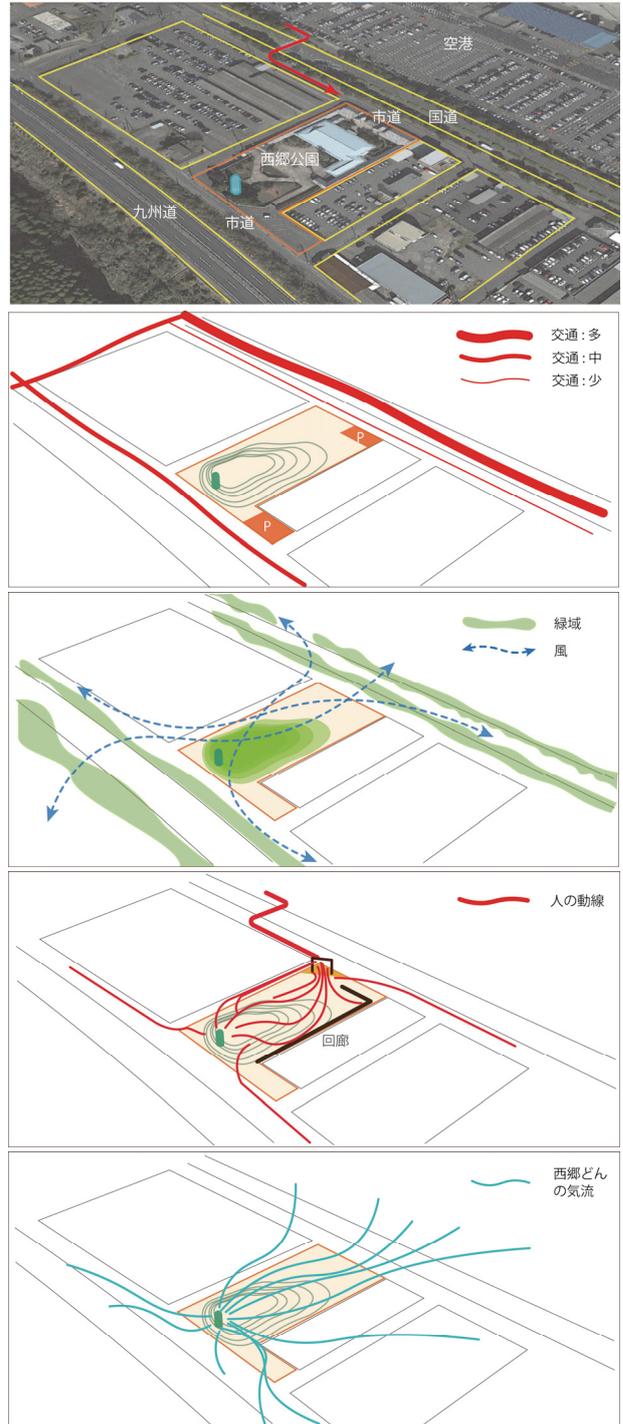


図-11 西郷公園再整備コンセプト（上：google 2017.2 閲覧写真加筆）

西郷公園は3辺が市道に接し南東側の1辺がレンタカー事業所に接している。園地は薩摩藩邸を模した塀で4辺を囲まれ、空港および国道に面した正門が、空港利用者等観光客に対する入口となっている。塀に沿って回廊が設けられ西郷隆盛や薩摩藩由来の展示品が陳列されている。オープンスペースは植栽と石張り舗装で構成され、西郷像の前面には噴水と築山的な擁壁造の高台が設けられ、西郷像の背面には高木が配置されている。噴水と高台は錦江湾と桜

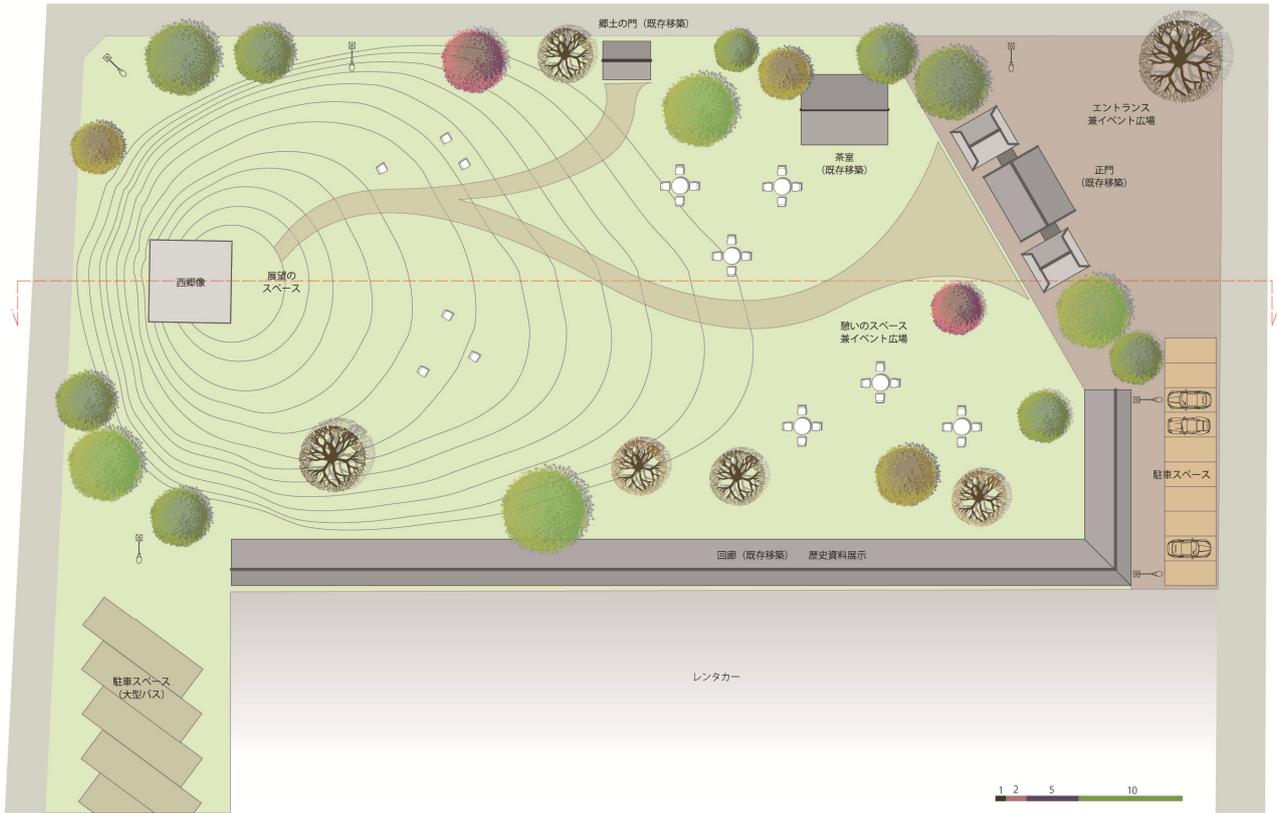


図-12 西郷公園リノベーション平面プラン



図-13 西郷公園リノベーション立面プラン



図-14 西郷公園リノベーションイメージスケッチ

島を想起させ、その後ろに高木を背にして西郷像が立つ空間構成となっている（写真-1, 図-10）。

西郷公園の歴史的・地理的文脈に沿い、西郷像を軸にした観光・地域利用促進に資するリニューアルコンセプトとして、駐車スペースの設置によるサイン性向上、緑のつながりによる風環境の創出、自由な利用を考慮したアクセシビリティ向上、西郷どんの雰囲気滲み出す開かれた環境の創出を立案した（図-11）。コンセプトを受けて、以下列記の通り、西郷像を中心とした自然豊かな緑地公園へのリニューアルプランを立案した（図-12, 13, 14）。

- ① 西郷像を軸に公園の空間を構成する。西郷像を中心としてマウンドを築き、来場者が西郷像に近寄り、西郷像の周りに集える空間をつくる。
- ② 西郷像マウンドの傾斜は無理なく歩ける緩傾斜とし、平面アプローチは緩やかに曲げ、西郷像に接近する行動において来場者の視点に高さ方向と水平方向の変化を与える。
- ③ 市道に面する3辺は自由に出入りできるようなフェンスを設けず、周縁に樹木を配置し境界は間接的に示し、緑豊かで開放的な空間を創出する。
- ④ 樹木は機械的に列植せず、樹木の間から西郷像が見えるよう適宜間隔を設けて配置する。常緑樹、落葉樹、紅葉樹など季節感を与える樹種を織り交ぜて配置する。
- ⑤ 樹木による緑陰を創出し、テーブル・ベンチとともに憩いの休憩スペースをつくる。
- ⑥ 空港利用者のアクセスに合わせ、国道横断位置に向けて正門を配置し、正門前に多目的スペースを設け、にぎわいによるサイン性の向上を期待する。
- ⑦ レンタカー事業所を背にした1辺は既存の回廊を利活用し、西郷隆盛や幕末・明治維新にまつわる薩摩の歴史資料の展示や、県内各地の歴史・観光情報やイベントの告知、地域の文化活動の発表スペースとしての利用を想定する。

6. 結び

薩摩では若者を二才（にせ）と呼び、二才組が藩の活力を支えていたが、西郷公園は約30年前、二才である当時の若者が発起し、西郷像を溝辺に建立したことにより建設された公園である。西郷隆盛の曾孫である西郷隆夫氏によると、西郷どんは若者の行動を否定せず、若者の自主性を重んじたようであ

る。西郷どんの敬天愛人の思想と、西郷像建立に心血を注いだ若者の活動に、時を越えたつながりを感じざるを得ない。西郷像の周りに現代の二才や子供たちが自然と集い憩う空間として、西郷公園が再びにぎわいを取り戻すことが期待される。

西郷公園のリノベーションプランを立案した取り組みは、本学の学生にとっても貴重な経験となった（図-15）。具体的な対象地を設定したケーススタディは、PBL型アクティブラーニングの教材としても効果的であろう。



図-15 西郷公園リニューアルプランのプレゼンテーションを実施する本学の4年生

謝辞

本研究は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）として支援を賜りました。また、内山氏、木左木氏をはじめ、多くの方々に貴重な意見をいただき、さらに、西郷公園再整備案を提案する貴重な機会を霧島市より賜りました。記して各位に謝意を表します。

参考文献

- 1) 霧島市：市報きりしま, 2008.7.
- 2) 溝辺町郷土誌編集委員会：溝辺町郷土誌, 1989.4.
- 3) 南日本新聞社：昭和62年6月25日付け南日本新聞朝刊記事, 1987.6.25.

